

令和8年度通常総会・記念講演会 開催

令和8年5月25日(月)午後3時からグランディエールブuketオーカイ(静岡市)において、当協会の令和8年度通常総会と記念講演会を開催しました。

毛利博会長の開会挨拶に続き、来賓として臨席いただいた静岡県医師会加陽直実会長及び静岡県健康福祉部高須徹也部長から挨拶をいただきました。

続いて、島田市立総合医療センターの青山武島田市病院事業管理者が議長に選出され、次の案について審議が行われて、すべての議案が承認されました。

- 第1号議案 令和7年度事業報告に関する件
- 第2号議案 令和7年度収支決算及び財産目録の承認に関する件
- 第3号議案 第9期役員を選任に関する件

今回の総会終結時に第8期役員任期が満了するため、第9期の役員選任を行い、総会後に開催した理事会において、別添のとおり新たに会長、副会長及び専務理事が選定されました。

～総会開会 会長挨拶～



公益社団法人静岡県病院協会 会長
毛利 博
(藤枝市立総合病院 藤枝市病院事業管理者)

初夏を感じる今日この頃ですが、令和8年度通常総会に御出席いただいた皆様にお礼申し上げますとともに、御多忙の中御臨席いただいた静岡県医師会加陽直実先生と静岡県健康福祉部長高須徹也様に感謝申し上げます。

さて、本年度診療報酬改定は、3.09%のプラス改定でしたが、人件費の高騰や診療材料費の増加などにより、全国で80%以上の病院が赤字となるなど、経営が逼迫しており、病院や診療所の閉鎖や病院の統合再編などが起きています。

このような中、国は、病院を機能別に分類し、急性期病院A、急性期病院Bなどを新設して、病院の役割を明確にした上で、連携を推進しようとしています。人口減少社会に向け、病院や病床数の削減や病院間の連携が必要になると考えられます。

県においても今後、地域医療構想調整会議等で議論されると思いますが、病院がそれぞれの立ち位置を明確にすることや、また、生成AIを用いて勤務環境の改善を図り、働きやすい環境を構築していくことが必要であります。

病院協会としましても医療勤務環境改善支援センターを活用して、働き方改革のさらなる推進を図ってまいります。医療は国民の大切なインフラですので、人口減少も踏まえて医療提供体制を堅持するために、県医師会や県とも連携をしていきたいと思っております。

最後に、本日の総会での審議が実りあるものになることを祈念するとともに、総会後に開催する記念講演会では全国自治体病院協議会会長の望月泉先生から「病院経営危機を乗り越える。我々は何をすべきか」をテーマに、病院の今そこにある危機について御講演いただきます。参加される各病院にとって、有意義な講演になるものと期待しています。

～来賓挨拶～

一般社団法人静岡県医師会 加陽直実 会長

本日は、令和8年度静岡県病院協会通常総会の開催、誠におめでとうございます。まずは、日頃から県内の医療を支え、地域住民の命と健康を守るために尽力されている病院関係者の皆様に、共に地域医療を担う医師会の長として感謝申し上げます。

さて、物価高騰や人手不足、混迷する世界情勢による医療物資等の供給不安など、私たちを取り巻く環境は依然厳しい状況にあり、こうした中で、創意工夫を凝らし、患者へ最良の医療を提供している皆様の真摯な取り組みに、心より敬意を表します。

6月には令和8年度診療報酬改定が施行されますが、30年ぶりに3%を超える高い水準となり、医療機関の経営も大きな節目を迎えます。県医師会としては、日本医師会と連携しながら、医療現場の声が政策に反映されるよう活動を展開する所存です。病院関係者の皆様には、引き続きの御支援と御協力をお願いいたします。

新たな地域医療構想のターゲットである2040年を見据えると、これからの医療は、新たな時代に対応した変化を求められており、癒やし支える医療の深化、医療と介護の連携強化、地域包括ケアシステムの推進、医療機能の分化と連携、そして何より持続可能な医療従事者の確保など、取り組むべき課題は多岐にわたります。

こうした多くの課題に対し、静岡県医師会は、静岡県健康福祉部や貴会とともに、本県医療の一層の発展を目指していく所存です。医師会と貴会の連携をこれまで以上に強化し、この難局を乗り越えるべく、共に歩んでまいりましょう。

結びに、本日の総会が実り多いものとなり、本県医療のさらなる向上に繋がるとともに、本日お集まりの皆様の御健勝と御活躍、静岡県病院協会の益々の御発展を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

静岡県健康福祉部 高須徹也 部長

静岡県病院協会の定期総会が、盛大に開催されますことを、お慶び申し上げます。

会員の皆様には、日頃から本県の医療行政の推進に格別の御理解、御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨今の物価高騰や人手不足に加え、中東情勢の影響により、燃料や医療用物資の高騰や安定的な確保が困難になるなど、厳しさを増す環境の中で、病院経営を維持されていることに、改めて敬意を表します。県としても、国の医療用手袋の有償放出に的確に対応するとともに、「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」を活用した、「医療機関診療経費等物価高騰対策支援金」等の交付を進めてまいります。

また、昨年度は、国の人口減少や医療機関の経営状況の急変に対応する緊急支援パッケージが実施されました。今年度も、経営環境の変化に対応できるよう、国の動向を注視しながら、速やかな事業実施に取り組んでまいります。

昨年4月から始まった医師の時間外労働の上限規制の適用については、様々な取組を進めていただき、感謝申し上げます。今年度は、特定労務管理対象機関の初めての指定更新時期に当たるため、県としても、県医療勤務環境改善支援センターの専門アドバイザーの派遣など、引き続き貴会と一体となって医療機関の支援の取組を強化してまいります。

県においては、今年度から、2040年を見据えた「新たな地域医療構想」の策定に向け、具体的な検討を開始し、「高齢者救急・地域急性期機能」などの医療機関機能に関する議論を地域ごとに進め、地域に求められる医療機能の明確化を図ってまいります。新たな地域医療構想の策定に際しては、県としても現場の声を真摯に伺いながら、丁寧に進めてまいりたいと考えておりますので、引き続き県行政への御理解と御協力をお願い申し上げます。

結びに、静岡県病院協会の今後ますますの御発展と、本日御列席の皆様への御健勝、御多幸を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

～記念講演会～

演題：病院経営危機を乗り越える。我々は何をすべきか

講師：公益社団法人全国自治体病院協議会会長 望月 泉 氏



講師の望月泉全国自治体病院協議会会長からは、まず、我が国の医療をめぐる諸問題について、国の歳入予算の現状や、医療保険制度の特徴と課題、国が進める社会保険制度改革の全体像、地域医療構想の策定に向け、その契機となった医療機関の機能・種類別の経営状況や我が国における医療提供体制の問題点について、詳しく解説いただきました。

次いで、病院の経営危機と診療報酬改定として、公立病院の令和6年度決算の状況や、特に急性期医療を取り巻く現状について、御説明いただき、今回の診療報酬改定の特徴と、新たに導入された急性期病院一般入院基本料等や急性期総合体制加算等の狙いから今回の改定の大きな目玉が、急性期機能の再編であるとの指摘がありました。

3点目として2040年ごろの医療を取り巻く状況と課題として、新たな地域医療構想と病院の在り方について、生産年齢人口の減少と高齢化の一層の進展により、高齢者救急の増加と在宅医療需要の増加が想定され、医療提供における需要と供給のギャップを解消するには、医療DXを推進するしかないとの考えが示されました。

最後にわれわれは何をすべきかとして経営効率化の具体的方策の御紹介や、地域医療連携推進法人制度を活用した連携強化の事例についてもお話いただき、多くの参加者が、今後の病院運営について考える貴重な機会となりました。